
野球 2

447ga

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

野球2

【コード】

N1429Q

【作者名】

447ga

【あらすじ】

クライマックスだけ！

九回裏、二死満塁、一点差。一打逆転の場面。

打者「パノラマ島綺譚」。

投手は「水木しげるの日本妖怪紀行」。彼は四十九の変化球を使い分ける投手だ。もっとも、その総てを見た者はいないのだが。

一球目。投手の「水木しげるの日本妖怪紀行」は、定石に反して変化級『枕返し』を投げた。打者の「パノラマ島綺譚」はそれがどんな変化を起こしたのか理解が出来なかったが、振ったバットにかすりもしなかった。ワンストライク。

二球目。捕手の「蕎麦ときしめん」は、変化球『さとり』を要求して、「水木しげるの日本妖怪紀行」は、それに応じた。変化球『さとり』は、まるで打者の心を見透かしたかのように、バットが通る軌道以外の所を通過する球だ。打者の「パノラマ島綺譚」は、その球種に見覚えがあった。というのは、「水木しげるの日本妖怪紀行」は、星のように様々な球種を使うものの、投球フォームは一定ではなかったのだ。それは自信の表れでもあるのだが、「パノラマ島綺譚」が付け入る隙はそこにしかない。「パノラマ島綺譚」は、もし本当に自分の心が見透かされているのなら、見透かされる心を持たなければいいのではないか、と考えた。

「パノラマ島綺譚」は死人のように眼を閉じ、無心のままバットを振った。すると、逃げ場を無くした変化球『さとり』は単なるストリートとなった。しかし、『さとり』は予想外におもい球で、前に飛ばすには至らなかった。ツーストライク。

三球目。捕手の「蕎麦ときしめん」は決め球『雪女』を要求した。この球には、打った打者はなんらかの意味で死ぬという、不可思議

なジンクスがあった。

「パノラマ島綺譚」はこの球種も読んでいた。この球が来ると信じていた。

??
????????????

勝負が決した夜空に、大きな花火が蜘蛛の足のように広がった。捕手の「蕎麦ときしめん」は、投手の「水木しげるの日本妖怪紀行」に言った。

<たまにはこっち側にごないと駄目だよ>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1429q/>

野球 2

2011年1月15日21時05分発行